

(熊本県立矢部高等) 学校 令和 7 年度 (2 0 2 5 年度) 学校評価計画表

<p>1 学校教育目標</p> <p>校訓「通潤魂」(豊かな心、勤労の喜び、創造の喜び、不屈の意志)を柱として、三綱領「誠実にして 礼節を重んずる」「勤労を尚び 自立を目指す」「創造の喜びを求め 不屈の意志を培う」を実践する。</p>
--

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>「自ら気づき 考え 行動する」 すべての教育活動と地域とのつながりの中で自立する生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自ら気づき 考え 行動する」という教育スローガンのもと、すべての教育活動をとおして生徒の主体性や自らを律する力を育成する。 ・地域とのつながりをとおして、将来、地域社会を構成する自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力(人間力)を高める。 <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の自己有用感を高める指導の充実(居場所と出番、安心感のあるクラスづくり) 2 生き生きと学び合う授業づくりの推進(授業改善と学習評価の工夫、ICT活用) 3 自治力を高める活動の推進(生徒会、学校家庭クラブ、学校農業クラブの充実と推進) 4 地域とともにある学校づくりの推進(地域との協働事業、ボランティア活動) 5 健やかでたくましい心身を育む教育の推進(心身の自己管理、部活動の推進、5S活動) 6 実効性のある働き方改革の推進(各分掌業務の効率化、Well-beingを高める職場づくり)

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	開かれた学校づくり	○公開授業の推進	○公開授業を年間2回実施	○6月と10月に学校全体で実施	B	●参加者は少なかったが、見学された方々の反応は概ね好評だった。
		○広報活動の推進	○学校の取り組みや学校の最新情報の発信	○広報部を中心としたHP・SNS等の運用と情報発信 ○各部・各科・各学年が連携した広報活動の実施	A	○教育活動を学校HP・SNSや広報誌等で定期的に発信し、地域や中学校への学校PRに取り組んだ。 ○各部・各科・各学年と連携した広報活動を行った。
	特色ある学校づくり	○食農科学科の魅力化	○地域産業との積極的な連携 ○インターンシップや校内外の研修を通じた実践的・体験的な学習の実施	○近隣保育園や小中学校との交流学习を各学期1回以上実施 ○先進農家や企業、農業大学校と連携した取り組みやインターンシップ・先進地研修の実施	A	○小中学校との交流学习は昨年度よりも対象校・回数を増やして実施できた。保育園との交流は天候不良によりできなかった。 ○インターンシップ・先進地研修を実施し、生徒の勤労観や地域への理解を深めることができた。
		○林業科学科の魅力化	○生徒が主役となれる地域行事への参加 ○学校農業クラブの活性化と地域と連携した活動の実施 ○インター	○八朔祭での造り物製作並びにボランティア活動の実施 ○各種競技会やイベントへの積極的な参加 ○近隣保育園や小中学校との交流活動 ○先進企業等と連携した取り組み	A	○今年度も林業科全学年で協力して大造り物製作ができた。祭り当日は生徒・有志でご参加くださった保護者の方々と一緒に町内を練り歩くことができた。 ○農業クラブ鑑定競技の分野で全国大会優秀賞、またプロジェクト発表の分野でも九

			ンシップ や校内外 の研修を とおした 実践的・ 体験的 な学習の 実施	やインターンシ ップ・先進地研修 の実施		州大会出場を果たす ことができた。また地 域内外のイベントに も積極的に参加でき たが、今年度は例年以 上に出事が多く生徒・ 職員共に疲弊が見ら れたため、次年度は見 直しを行いたい。 ○課題研究活動をと おして近隣保育園と交 流を行うことができ た。 ○地域林業実践体験研 修、インターンシ ップ、各種研修等をと おして様々な技術に触 れ、職業観の育成につ ながった。
		○普通科の 魅力化	○自治体・ 地元企業 との連携 ○生徒が主 役となる 探究学 習	○地域課題をテー マとした探究学 習活動	A	○1年生は、地域の企業 の魅力を探る探究活 動として、企業への取 材を行い、紹介動画を 作成し、SNS等で配信 した。 ○2年生普通科は、地域 の企業と連携し、オリ ジナル商品の開発を 行い、下通アーケード 内でYABEMAと題して マーケットを行った。 ○県立学校学びの祭典 に参加し、探究学習で の成果を発表した。
業務改善 及び働き 方改革の 推進	○業務の整 理・効率 化による 教職員の ワーク・ ライフ・ バランス の実現	○時間外勤 務時間が 月45時 間を超え る教職員 を月平均 7.5人 以下 ○部活動 における 県指針を 徹底し、 アンケート で4段階 中3.4 以上の評 価を得る	○各分掌部による 業務改善案の提 出(2回)・実施 ○部活動練習計画 表の点検により 県指針の徹底を 図る。 ○ICTを活用し た迅速な情報共 有及び業務の効 率化 ○チャットを活用 した定時退勤日 の職員への声か け ○教員業務支援員 の活用		B	○時間外勤務時間が月 45時間を超える教 職員は月平均7人。 (12月末現在) ○部活動の適切な実施 についてアンケート では3.2(生徒3.3、 保護者3.1)の評価と なった。 ●部活動練習計画の集 約時期を早める。 ●アンケートで理由に ついては収集する。 ●教員業務支援員のさ らなる活用(R7は職 員1人あたり4時間 の活用)。
危機管理 体制の強 化	○危機管理 意識の向 上と的確 な対応 ○地域の状 況を踏ま えた防災 教育の充 実	○危機管理 マニュアル の点検・ 見直し 及び防災 避難訓練 等の実施	○危機管理マニ ュアルに沿った避 難訓練の実施と マニュアルの見 直し ○実験・実習・体育 ・学校行事等にお ける想定及び 事前指導の徹底 ○地域消防署と連 携した防災訓練 並びにAED職		A	○危機管理マニュアル に沿った避難訓練を 年2回行い、訓練後関 係者で検証を行った。 ○防災教育はマイタイ ムラインを行い、日頃 からの防災意識を高 めた。 ○医療関係者である育 友会会長と地域消防 署が連携し、心肺蘇生 法の講習を行った。

				員研修の実施		
		○学校管理下の事故未然防止の取組	○実験・実習・体育・学校行事等での事故「0（ゼロ）」	○定期的な劇物・薬物の保管・使用状況の点検及び施設・設備の点検	A	○日常の安全点検、危険箇所の明示を行った。改善が必要な場合は対応ができた。 ○劇薬物の保管等について適正に管理できた。 ○校内での大きな事故は発生しなかった。
学力向上	基礎学力の向上	○学校全体での個に応じた指導の徹底	○生徒の理解度に応じた授業づくりの推進 ○授業時間数の管理 ○個に応じた指導と課題の充実	○授業時間の確保 ○年間を見通した授業調整と行事の精選 ○進路指導部と連携した学習支援ツールの活用	B	○学期毎の授業時間数管理を徹底した。学習支援ツールの活用や到達度テストの実施など、具体的方策にあげていることができた。
	わかる授業の創造	○生徒の実態にあった教科指導力の向上	○観点別評価の確立 ○授業評価の実施 ○合理的配慮のある授業づくりの推進	○シラバスの活用と評価方法の工夫・改善 ○年2回の授業評価を実施 ○教育相談部と連携した授業のUD化推進	B	●シラバスの改善と配付を徹底し、閲覧用に冊子にした。授業評価後は分析会で内容の総括を行った。授業UD化に向けて、見やすい色のチョークを購入した。
	朝読書の充実	○朝読書の推進	○10分間黙読の徹底 ○全職員による読書指導の徹底 ○一人当たり年間冊数の増加	○朝読の意義を職員に周知 ○図書だよりの活用	B	○4月当初の職員会議で朝読書の実施、意義について、周知し、4月から開始をした。図書委員による朝読開始の放送での呼びかけ、教員も一緒に取り組むなど、9割のクラスで定着できている。 ○一人当たりの年間貸出冊数については、前年度よりも約2冊減少しており、次年度は読書意識を高めるような企画、図書館だよりの工夫など貸出冊数増につながる取り組みを図書館関係職員と検討していきたい。
キャリア教育	将来を見通したキャリア教育	○適確な自己分析と適正な進路選	○キャリアパスポート活用、	○キャリアパスポートを活用した進路LHRの検		○キャリアパスポートを活用した志望理由書の作成、校内・校外

(進路指導)	育の充実	択	キャリアプランニング能力の育成 ○3年間のキャリア教育の流れの可視化	討、系統別進路学習・進路ガイダンス・進路・成績検討会の実施 ○各学科と連携した「矢部高校キャリア教育の流れ」の作成	B	進路ガイダンスへの参加、各種検討会をそれぞれ実施した。 ●「矢部高校キャリア教育の流れ」案を作成し、現在検討を重ねている。
	就職指導の充実と進路保障の実現	○適正な自己理解と職業選択	○職業理解プログラムの充実 ○就職内定100%達成	○企業訪問、校内ガイダンス、交流会の実施 ○担任とキャリアサポーターとの連携 ○就職試験に向けた個別指導の充実	A	○企業訪問、校内ガイダンス、交流会のすべて実施できる見通しがついた。(2、3月実施予定のものもあり) ○キャリアサポーターとの面談、各種講座を実施できた。 ○就職内定100%を達成できた。
生徒指導	基本的なマナーの徹底	○進学・就職へ向けた意識の向上	○進路指導部と連携した面接試験等に通用する整容・挨拶指導の徹底	○服装・頭髪指導年4回実施 ○全職員による自ら考えさせる服装・頭髪指導 ○挨拶運動、登校指導の実施及び集会等での実践	B	○全職員による服装指導体制は整ったが、行動改善には個人差が見られた。 ●進路部と連携した整容指導を行ったが、上級生の乱れは十分に改善しなかった。 ●登校指導や風紀委員長からの呼びかけを行ったが、主体的な意識向上には課題が残った。
	交通安全教育の充実	○全人教育としての交通安全教育の充実	○交通事故・違反等重大事故や違反件数「0(ゼロ)」	○登校指導、安全点検の実施、 ○交通安全教室、新規免許取得者講習の実施 ○交通事故・違反者の事後指導の実施 ○自転車通学生へのヘルメット着用の徹底 ○原付・自転車通学生集会の実施	A	○昨年度に比べ事故・違反件数は大幅に減少し、成果が見られたが一部苦情や違反が残った。 ○二輪車競技部を中心に、生徒主体の交通安全教育を推進できた。 ○本校の取組を全国発信し、交通安全教育の実践例として評価された。 ○自転車通学生のヘルメット着用指導を徹底した。
	自ら考える指導	○生徒の実態に合った生活態度やルールの見直し ○環境美化の徹底と環境教育の推進	○校則の見直し ○保健・環境委員会を中心とした環境美化活動の充実	○生徒会を中心とした見直しの検討 ○掃除開始時間の徹底 ○校内放送や掲示物等による啓発活動 ○生徒が主体となる5S活動の実施	B B	●生徒会を中心に校則の見直しを進めており、今後アンケートを実施する予定である。 ●生徒による5S活動の啓発により認知度と意識の向上が見られたが、5Sの習慣化には課題がある。 ○昨年度に引き続き町内清掃活動を年間3回実施し、参加者は平均30名以上であった。

人権教育の推進	自他の命を大切に、差別を見抜き許さずなくす行動ができる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○人権教育の内容の充実 ○命を大切にすることを育む指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○LHRの授業内容の精選、教材研究の推進 ○研究授業による指導力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年会等で授業検討会議の実施 ○各学年年間3回（3学年は2回）分の教材を作成 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年の生徒の課題や実情に応じた検討が行われ、授業の質の向上が達成された。 ○町授業研に一定数の参加者が見られた。次年度はさらに増加する手立てを立てる。
		<ul style="list-style-type: none"> ○職員研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○職員の共通理解と認識の向上 ○校外の各種団体主催の研修への確実な参加、適切な情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ○年1回の講演会の実施と年4回の研修を実施 ○校外研修に全職員が1回以上参加 ○人権だよりを4回発行、職員への意識向上の情報提供を12回以上実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○講演会は、町中学・高校合同講演会で同和問題を学んだ。研修は命の日、現地学習会と校内研修を2回の計4回を実施した。 ○人権だよりは3回、情報提供は14回の発信を行った。時宜に応じた情報や同和教育の視点を発信できた。
いじめの防止等	いじめの「未然防止」及び「早期発見」	<ul style="list-style-type: none"> ○全ての生徒が安全・安心に学校生活を送り、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できる学校 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりが自ら考え行動できる力の向上 ○教職員と生徒がいじめの兆候に気づく意識と対応体制の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりが活躍できる学校行事等の充実 ○規律ある学校生活のため、授業・生徒指導の充実 ○2者面談・アンケート等の定期的な実施 ○登校指導での生徒への積極的な声かけと観察 ○各部会での情報共有化と組織的で迅速な対応 ○専門家との定期的な防止対策会議の開催 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○担任を中心に二者面談や心のアンケート等を計画通り実施し、未然防止体制を維持できた。 ○相談しやすい環境づくりが進み、本年度の認知件数は0件であった。 ○認知件数にとらわれず、見逃し防止の取組をさらに徹底する必要がある。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	総合型コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校を含めた地域との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○本校教育活動等について小中学校を含めた地域からの理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年2回の学校運営協議会の開催。 ○学校運営協議会委員による公開授業や学校行事の参観 ○「矢部高校通信」による情報発信 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校の代表にも学校運営協議会に参加いただけた。 ○「矢部高校通信」を上益城管内中学校にも継続的に配付できた。 ○矢部高校アンケートを実施し、本校の教育活動について町内に情報発信できた。
	地域との協働による学校の魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> ○高校魅力コンソーシアムモデル構築支援事業への取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○高校魅力コンソーシアム参加団体の決定 ○コンソーシアム規約の策定 ○コンソーシアム会議の開催（今年度内に1回以上） 	<ul style="list-style-type: none"> ○事務局（自治体、学校、コーディネーター）内で月1回以上の定期ミーティングを実施し取組を進める。 ○主担当者間で月1回以上の進捗確認を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○計画どおりに諸準備を進め、3月下旬に第1回コンソーシアム会議を開催できた。 ●コンソで決定した方向性にもとづく本校教育活動のPR戦略についての検討。

<p>特別支援教育（教育相談含む）の推進</p>	<p>生徒一人ひとりが安心して学校生活を送るための教育相談・支援</p>	<p>○個の発達に応じた指導の充実 ○職員研修の推進</p>	<p>○生徒の自立と社会参加を見据えた指導・支援の充実 ○関係機関との連携強化による切れ目のない支援の充実 ○教職員の特別支援教育に係る資質と指導力の向上</p>	<p>○生徒の指導計画の作成及び全職員による支援 ○関係機関との連絡会やケース会議の積極的な実施 ○研修会を年2回実施</p>	<p>A</p> <p>○担任を中心に個別の教育支援・指導計画を作成し、授業担当者による支援につなげることができた。 ○SSWやSC、関係機関とのケース会議は、合計10回行った。その他電話やメール等で頻繁に情報共有に努めた。 ○生徒理解研修会を、4月、7月、12月に開催した。 ●次年度への改善・引き継ぎをいかに行うか。 ●「会議を行った」・「計画を作成した」だけで終わらない支援の在り方</p>
--------------------------	--------------------------------------	------------------------------------	---	---	--

<p>4 学校関係者評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価については了承。 ・各学科とも様々な活動に取り組んでいるが、働き方改革といった観点もあり難しさもあるのではないか。 ・学校の取組が地域住民にあまり知られていないと感じる。伝わったとしても「いろいろやってる」という伝わり方になっている可能性。効果的に情報発信することができないか。 ・都度都度のお知らせだけでなく、本日の資料のようにまとまったものを見ることができたらいいのではないか。 ・小中学校のPTA総会に生徒が行って発表（プロジェクト発表）することはできないか。 ・地域みらい留学に町の職員が参加することは可能か。 ・地域と一緒にやっていくのは重要。森林保全活動で保・小・中・高・大の繋がりを作っていくことも考えられるのではないか。

<p>5 総合評価</p> <p>本年度は教育スローガン「自ら気づき 考え 行動する」のもと、地域と連動した特色ある教育活動において大きな成果を上げた。特に「特色ある学校づくり」では、食農・林業・普通科の各科が地域産業や自治体と深く連携。大造り物製作やオリジナル商品開発、SNSを活用した企業紹介など、生徒の主体性を引き出す探究学習が展開され、いずれも最高評価の「A」となった。また、就職内定率100%の達成や、交通安全教育における全国的な評価も特筆すべき成果である。一方で「学力向上」や「生徒指導」面では、ICT活用や服装指導の体制整備は進んだものの、生徒の行動改善や読書習慣の定着には個人差が見られ、次年度への課題を残した。今後は地域との協働をさらに深化させつつ、教職員の業務効率化（Well-being）を両立させ、より実効性の高い指導体制の構築を目指す。</p>
--

<p>6 次年度への課題・改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力化コンソーシアムの方向性を軸とした各学科の活動の精選・見極め。 ・県外（地域みらい留学）へのPR活動のさらなる強化に加え、町内中学校からの入学者増を目指した情報発信・生徒募集活動を充実させる。 ・学校評価アンケートから業務改善の方向性が具体的に読み取れるよう、低評価の理由を記述する欄を設定する。
--